

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察特殊報第 1 号を下記のとおり発表したの送付します。

令和 2 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号

令和 2 年 10 月 23 日
岡 山 県

1. 病虫害名 ビワキジラミ *Cacopsylla biwa*
2. 発生作物名 ビワ
3. 特殊報の内容 ビワにおけるビワキジラミの発生を初確認
4. 初発生確認月日 令和 2 年 10 月 1 日
5. 発生確認場所 岡山県南部
6. 発生面積 県内 1 カ所の 1 樹
7. 発生状況

令和 2 年 10 月 1 日に岡山県南部のビワ成木において、葉上にキジラミ類と思われる成虫が寄生していることを確認した。成虫（図）を採集し、神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県未発生のビワキジラミと判明した。国内では、平成 24 年に徳島県で初めて発生が確認され、その後、香川県、兵庫県及び和歌山県で発生の報告がある。

8. 形態

成虫は小さなセミのような外観をしており、発生時期によって、体サイズや色彩がやや異なる。4～6 月に発生する春夏型は小型（成虫の全長：2.3～3.2 mm）で、体や前翅外縁に淡黄褐色の斑紋がある。11 月～翌 3 月に発生する秋冬型は春夏型より大型（成虫の全長：3.0～3.8 mm）で、体や前翅外縁の斑紋が濃くなる。いずれの季節型も胸部に黄白色の縦条や小斑紋があり、頭部や腹部はしばしば緑色を帯びる。触角の長さは頭幅の 0.8～1.2 倍と、日本産の同属他種より短い。幼虫は扁平で、淡い黄褐色～黄緑色をしており、腹部の一部や翅芽（羽になる部分）などが褐色である。

9. 生態及び被害

本虫は年間に 5 世代程度繰り返すとみられ、季節によって密度の増減はあるが、年間を通じてビワ樹に寄生する。成虫は 5～6 月頃に多発生し、葉裏の主脈にそって群生するが、7 月中旬から 8 月の盛夏期には樹幹部の日陰に入り休眠状態となり、枝先の葉上ではほとんど見られなくなる。9 月以降に活動を再開し、10 月下旬以降に秋冬型成虫が現れ、以後は樹上ですべての生育ステージが確認される。翌春まで比較的低密度のまま花房や幼果に寄生し、気温の上昇とともに徐々に密度を増し、春季に多発する。幼虫は花芽の基部や果梗、芽鱗の下などの隙間に寄生して吸汁し、甘露や白色ロウ物質を排出する。本種による被害は果実肥大期から成熟期に見られ、果実や葉の表面に付着した甘露に激しいすす病が発生する。

10. 防除対策及び参考事項

- (1) 葉裏に寄生した成虫やすず病の発生を目印として、早期発見に努める。
- (2) 秋以降にビワの花芽に産卵し、翌春まで花芽や幼果の上で数世代繰り返すため、発生が多くなる秋期から袋掛け作業前までに表の薬剤を散布する。
- (3) 枝葉表面を覆う微毛が薬剤をはじくこと、花芽基部などの隙間に隠れている幼虫には薬剤がかかりにくいことから、薬剤使用にあたっては展着剤を加用し、丁寧に散布する。

参考文献：井上（2015）：植物防疫第 69 巻第 2 号、P. 97-101

中西ら（2015）：植物防疫第 69 巻第 2 号、P. 102-105

ビワキジラミ防除のための総合技術マニュアル（農研機構、2020 年 3 月）



図 ビワキジラミ成虫

表 ビワにおけるビワキジラミの主な防除薬剤（令和 2 年 9 月 14 日現在）

系統名	薬剤名	農薬使用基準			IRACコード
		使用時期	使用回数	希釈倍数	
有機リン	スプラサイド乳剤40	開花期まで	2回以内	1500倍	1B
ピレスロイド	スカウトフロアブル	収穫3日前まで	3回以内	2000倍	3A
ME T I	サンマイト水和剤	収穫3日前まで	2回以内	3000倍	21A
ネオニコチノイド	スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	2回以内	2000倍	4A
ネオニコチノイド	アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2回以内	2000倍	4A
ネオニコチノイド	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	2000倍	4A
ネオニコチノイド	オールスタースプレー	収穫前日まで	2回以内	原液	4A

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

